



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2010

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告

ピオーネ栽培の省力化に向けて

「中北地域普及センター」



●房づくり時の現地検討会



●収穫直前の現地検討会

中北地域普及センターでは、ぶどう産地の葦崎市穂坂町において、JA梨北穂坂支店と連携し、主力品種である種なしピオーネの省力栽培体系実証ほを設置しました。これは、果樹試験場の平成21年度試験研究成果をふまえ、これまでの花穂伸長処理技術に加え、ジベレリン1回処理等の技術を組み合わせた省力栽培体系の現地実証です。

本年度は展葉5枚（花穂伸長処理）、房づくり、摘粒、収穫直前の時期に現地検討会を開催し、各時期の管理方法と併せ、得られた省力効果について検討を進めてきました。

今後も省力栽培体系の導入希望者への普及を目指し、引き続き中北地域の果樹産地の維持・発展のため支援を行います。

芦川地区の活性化に向けて

「峡東地域普及センター」



おごっそう屋

●活気づく店内

今年3月に笛吹市芦川地区と富士河口湖町を結ぶ、若彦トンネルが開通しました。このトンネルの開通によって、芦川地区は、観光地を数多くかかえる富士北麓圏域とのアクセスが良くなりました。そして、新たな観光周遊ルートの拠点施設として4月には、地域の活性化を目的に整備された農産物直売所「おごっそう屋」がオープンし、毎日活気に満ちあふれています。当普及センターでは、総合農業技術センターと連携し、新規農産物の実証ほの設置や、新たな品目の栽培提案など多品目生産と新たな産地化に向けた様々な支援を行い、農産物直売所の利活用を促進しています。



新たな品目の提案・実証への取り組み

「夏秋どりイチゴ」

芦川地域の夏の冷涼な気候を活かし、高冷地の作付けに向いている夏秋どりイチゴで、県のオリジナル品種である「かいサマー」の実証を行っています。なお、ほ場はホウレンソウ雨よけハウスを有効活用しています。

「シンテッポウユリ」

スズランの群生地で有名な芦川地区の「花」のイメージから、シンテッポウユリの栽培を試験的に行っています。また、景観形成のため、ほ場での実証とあわせ、直売所隣の空いた敷地でも栽培を行っています。今後も関係機関と連携する中で、直売所の更なる発展、また芦川地区の活性化に向けて積極的に取り組んでいきます。

新たな担い手の定着支援・市川三郷町大木地区

「峡南地域普及センター」



市川三郷町大木地区では、平成20年11月から3.7haのほ場整備の工事を開始し平成22年8月末現在で工事はほぼ終了しています。

普及センターは基盤整備した畑の担い手を確保する必要があることから、平成19年度から基盤整備地の有効利用推進に取り組んできました。まず地区に対して耕作希望アンケート調査を行い、地区の方が耕作できる面積を把握し、残りの畑の有効活用について「大木ほ場整備土地利用検討委員会」を設立、その中で地区内外から担い手の掘り起こしを行いました。



●基盤整備されたほ場

その結果、地権者以外の数名の方とともに北杜市高根町の梶原農場が受け入れている研修生が耕作者として入ることになり、22年8月から秋作の準備を開始しています。

今後は地域へ定着し、営農を継続していけるよう関係機関と連携しながら



富士山麓地域の野菜産地の振興

「富士・東部地域普及センター」



●全農フェアへの出品

富士山麓地域には、高冷地の気候を生かした野菜が豊富にあります。しかし、耕地が限られ高齢化が進んでいるため、安定した農業所得や担い手の確保が課題となっています。

そこで、富士山麓地域を一つの生産地としてとらえ、地域の野菜生産者が連携し、市町村、JA、普及センターとが一体となって取り組む、「富士山野菜生産者協議会」を今年2月に設立しました。協議会では、参加する生産者の野菜の総称を「富士山やさい」とし、生産力と販売力の強化を目指しています。

普及センターでは、「富士山やさい」の品質向上と安定供給を目指して、栽培技術を中心に支援し、地域の農家が安心して経営できる農業と次世代の担い手の育成を図っていきたく考えています。今年度は、富士山やさいの知名度向上と、会員相互の情報交換を中心に活動しています。



●富士山やさいフェア開催



●スイートコーン 検討会

